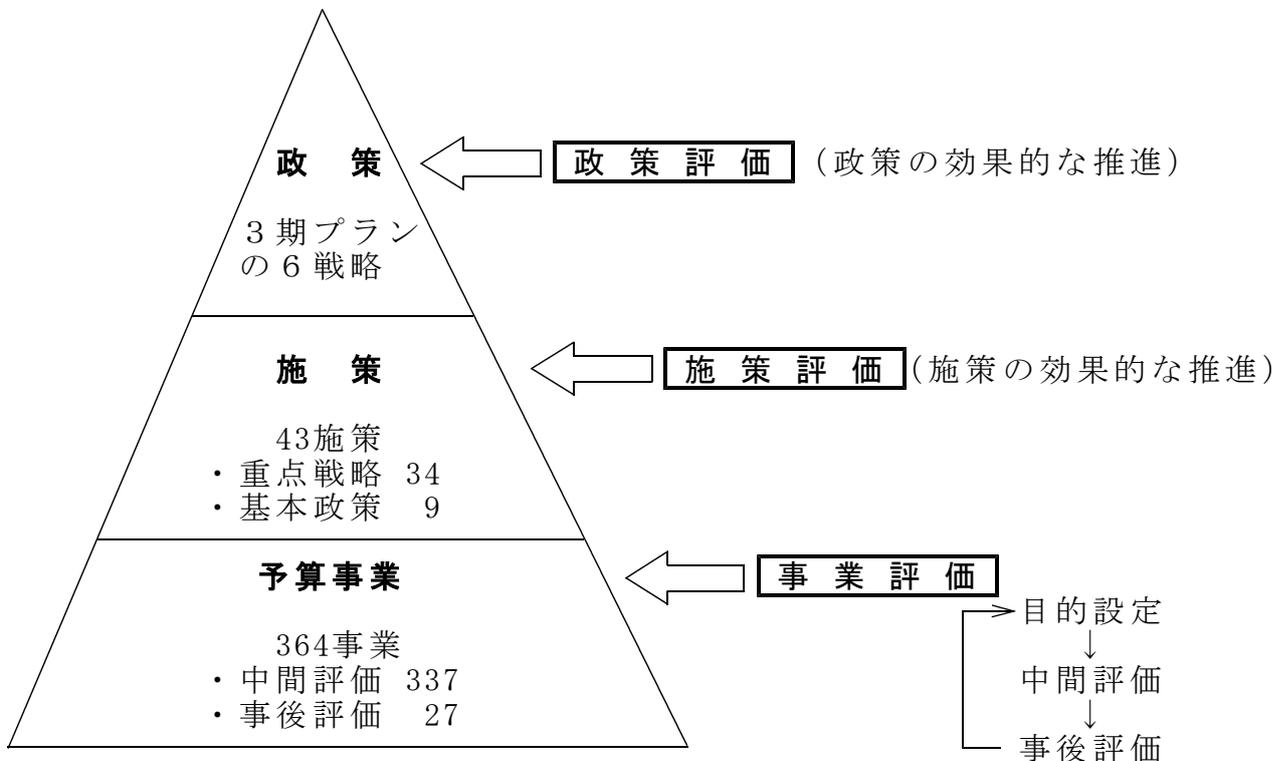


令和元年度政策等の評価の実施状況について

令和元年 9月18日
企画振興部

各実施機関（知事、教育委員会、公安委員会及び警察本部長）が令和元年度（評価対象：平成30年度）に行った政策等の評価の実施状況は、次のとおりである。

I 政策等の評価の体系と目的



- 政策等の評価は、目標数値に対する達成度などの評価に加え、目的に応じた事業の展開状況や、それぞれの政策を取り巻く外的要因の変化なども併せて、総合的に判断している。
- 実績の評価に当たっては、原則として平成30年度の数値等を使用している。

Ⅱ 第3期ふるさと秋田元気創造プランの政策等の評価の結果（概要）

1 重点戦略（政策）の評価結果の状況

総合評価	件数	重点戦略（政策）名
A	0	
B	2	戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略（3.00） 戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略（3.00）
C	4	戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略（2.86） 戦略5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略（2.80） 戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略（2.75） 戦略1 秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略（2.20）
D	0	
E	0	

（注）（ ）内の数字は、戦略を構成する施策の評価結果の平均点
 施策評価結果の点数 A：4点、B：3点、C：2点、D：1点、E：0点

【政策評価の評価基準】

①定量的評価

- A：平均点＝4点（全てA）
- B：4点＞平均点≥3点（平均B以上）
- C：3点＞平均点≥2点（平均C以上）
- D：2点＞平均点≥1点（平均D以上）
- E：1点＞平均点≥0点（平均D未満）

②定性的評価

施策の推進状況等（社会経済状況等を踏まえた場合に特に考慮する必要がある施策の取組状況とその成果など）から判定する。

③総合評価

A B C D Eの5段階に判定する。

2 重点戦略を構成する施策の評価結果の状況

重点戦略名・施策名	総合評価
戦略1 秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略	C
1-1 社会減の抑制に向けた雇用の場の創出、人材育成・確保	C
1-2 若者の県内定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり	C
1-3 結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート	E
1-4 女性や若者の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現	B
1-5 活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会づくり	A
戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略	C
2-1 成長分野の競争力強化と中核企業の創出・育成	B
2-2 中小企業・小規模企業者の活性化と生産性向上	A
2-3 国内外の成長市場の取り込みと投資の促進	C
2-4 産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備	C

戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略	B
3-1 秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成	B
3-2 複合型生産構造への転換の加速化	B
3-3 秋田米の戦略的な生産・販売と水田フル活用	B
3-4 農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化	B
3-5 「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化	B
3-6 つくり育てる漁業と広域浜プランの推進による水産業の振興	C
3-7 地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり	A
戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略	B
4-1 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化	B
4-2 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進	B
4-3 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出	B
4-4 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大	C
4-5 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備	A
4-6 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築	B
戦略5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略	C
5-1 健康寿命日本一への挑戦	C
5-2 心の健康づくりと自殺予防対策	B
5-3 医療ニーズに対応した医療提供体制の整備	B
5-4 高齢者や障害者等が安全・安心に暮らせる福祉の充実	B
5-5 次代を担う子どもの育成	B
戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略	C
6-1 自らの未来を主体的に切り拓き、秋田を支える気概に満ちた人材の育成 ★	B
6-2 子ども一人一人に応じた教育の充実と確かな学力の定着 ★	B
6-3 世界で活躍できるグローバル人材の育成 ★	A
6-4 豊かな人間性と健やかな体の育成 ★	B
6-5 子どもの成長を支える魅力的で良質な学びの場づくり ★	A
6-6 地域社会と産業の活性化に資する高等教育機関の振興	D
6-7 地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供 ★	C

(注) ★は教育委員会が評価を行った施策

【施策評価の評価基準】

①-1 代表指標の達成率の判定基準

実績値 ≥ 基準値	a	達成率 ≥ 100%
	b	100% > 達成率 ≥ 90%
	c	90% > 達成率 ≥ 80%
基準値 > 実績値	d	80% > 達成率
	e	実績値が前年度より改善 実績値が前年度より悪化
実績値が未判明	n	実績値が未判明

①-2 定量的評価の判定基準

A	代表指標が全て「a」
B	代表指標に「b」があり、「c」以下がない
C	代表指標に「c」があり、「d」以下がない
D	代表指標に「d」、「e」を含む
E	ただし、「E」、「N」に該当するものを除く
N	代表指標が全て「e」
	代表指標に「n」を含む

② 定性的評価

施策の取組状況とその成果、外的要因等から判定する。

③ 総合評価

A B C D E の5段階に判定する。

3 政策評価及び施策評価の結果

■戦略1 秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略

施策1-1 社会減の抑制に向けた雇用の場の創出、人材育成・確保

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
雇用創出数(人)	目標			2,493	2,600	2,772	2,985	
	実績	2,552	2,209	R1.10月判明予定				
	達成率			—				
出典: 県あきた未来戦略課調べ		指標の判定		n				

総合評価	評価理由
C	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「雇用創出数」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。 ● 代表指標①に関しては、直近の平成29年度の実績値は、30年度目標値の88.5%の水準となる2,209人であり、大型雇用型の企業誘致による突出した雇用の増加があった28年度（現状値）の2,552人を下回る結果となっており、30年度も目標の達成は厳しいものと思われる。しかしながら、30年度は、輸送機分野において、電動パワーユニット分野で量産製造に向けた設備整備が進められるなど、大きな雇用増につながる動きがある。また、観光産業では、新規雇用者数は535人と前年比で44人増加している。農林水産業では、首都圏の移住就業希望者を対象にしたセミナーや個別相談会のほか、就業希望者への短期・中期体験研修会の開催などにより、新規就農者数は29年度まで5年連続で200人以上を確保しているほか、新規林業就業者数はここ数年130人台で推移している。また、漁業においては、30年度の新規漁業就業者数は11人となり目標を達成するなど、次代を担う人材の確保が図られている。 ● 建設産業では、新規高卒者の県内建設業への就職者数が172人と前年度比20%超の増加となるなど、建設産業担い手確保育成センターに配置された担い手確保育成推進員による新卒者確保の企業へのノウハウの伝授や、高校生に建設業の魅力を伝える取組等の成果が現れてきている。介護分野では、求人・求職に係るマッチングの推進や、介護職員の処遇改善加算の取得・活用の支援など、介護職への新規就労及び職場定着を支援する各種取組等により、介護施設等の介護職員数は増加傾向にある。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。

施策1-2 若者の県内定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり

代表指標①	年度	現状値 (H27)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
人口の社会減(人)	目標			△ 3,590	△ 3,080	△ 2,560	△ 2,050	
	実績	△ 4,100	△ 4,410	R1.11月判明予定				H28実績 △ 4,253
	達成率			—				
出典: 県調査統計課「年齢別人口流動調査」		指標の判定		n				

総合評価	評価理由
C	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「人口の社会減」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。 ● 代表指標①に関しては、平成30年10月～令和元年5月の社会増減数の実績（△3,624人）に、未判明である令和元年6月～9月の前年同期値（△310人）を加えた値は△3,934人、達成状況は91.3%で「b」相当であり、就活支援の強化や、移住・Aターン就職に関するきめ細かな相談対応、情報発信等を行った結果、成果指標④「移住者数（県関与分）」や成果指標⑤「Aターン就職者数」が目標を大きく上回るなど、社会減の抑制につながる成果が現れてきている。 ● 一方で、成果指標①「県内大学生等の県内就職率」や成果指標③「高校生の県内就職率（公私立、全日制・定時制）」が目標値を下回るなど、若年層の県内定着が十分に進んでいるとは言えない状況にある。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。

施策1-3 結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
婚姻件数(組)	目標			3,590	3,660	3,730	3,800	
	実績	3,510	3,311	R1.9月判明予定				
	達成率			-				
出典:厚生労働省「人口動態統計」	指標の判定			n				

代表指標②	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
出生数(人)	目標			5,700	5,800	5,900	6,000	
	実績	5,666	5,396	R1.9月判明予定				
	達成率			-				
出典:厚生労働省「人口動態統計」	指標の判定			n				

総合評価	評価理由
E	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「婚姻件数」及び②「出生数」のどちらも「n:未判明」であり、定量的評価は「N」。 ● 代表指標①に関しては、速報値は3,052組、達成状況は85.0%で、現状値及び前年実績値より悪化しているため「e」相当、代表指標②に関しては、速報値は5,040人、達成状況は88.4%で、現状値及び前年実績より悪化しているため「e」相当である。 ● 新たに理美容院等218店舗の参加による地域住民向けの結婚・子育てに有益な情報発信の仕組みづくりが整うなど、官民協働による結婚から出産・子育てを社会全体で支える機運醸成に向けた取組が進んだほか、就学前教育・保育施設の保育者研修への参加者が前年度の約1.5倍に増加する(+1,410人)とともに、子育て世帯に対する保育料助成や住宅リフォーム支援の拡充を実施するなど、子育ての環境づくりが進んだものの、これら取組による自然減の抑制に向けた大きな効果はまだ現れてきていない状況にある。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「E」とする。

施策1-4 女性や若者の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画策定企業数(従業員数300人以下の企業)(社)	目標			180	240	300	360	
	実績	64	130	174				
	達成率			96.7%				
出典:厚生労働省「都道府県別女性活躍推進法に係る一般事業主行動計画策定届出状況」	指標の判定			b				

代表指標②	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画策定企業数(従業員数100人以下の企業)(社)	目標			285	300	315	330	
	実績	262	287	361				
	達成率			126.7%				
出典:厚生労働省「都道府県別一般事業主行動計画策定届の届出及び認定状況」	指標の判定			a				

総合評価	評価理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画策定企業数(従業員数300人以下の企業)」は「b」判定、②「次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画策定企業数(従業員数100人以下の企業)」は「a」判定であり、定量的評価は「B」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

施策1-5 活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会づくり

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
社会活動・地域活動に参加した人の割合(%)	目標			50.0	54.0	58.0	62.0	
	実績	42.0	46.6	62.1				
	達成率			124.2%				
出典: 県総合政策課「県民意識調査」		指標の判定		a				
総合評価	評価理由							
A	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「社会活動・地域活動に参加した人の割合」は「a」判定であり、定量的評価は「A」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。 							

戦略1の政策評価結果

総合評価	評価理由
C	<ul style="list-style-type: none"> ● 施策の評価結果は、「A」1施策、「B」1施策、「C」2施策、「E」1施策（施策の評価結果の平均点は2.20）であり、政策の定量的評価は「C」。 ■ 施策の評価結果や推進状況などを総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。

■戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略

施策2-1 成長分野の競争力強化と中核企業の創出・育成

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
輸送用機械器具製造業の製造品出荷額(億円)	目標			1,220	1,269	1,319	1,372	
	実績	1,124	1,568	R1.9月判明予定				
	達成率			—				
出典:県輸送機産業振興室調べ	指標の判定			n				
代表指標②	年度	現状値 (H27)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
医療機器関連製造業の製造品出荷額(従業員4人以上の事業所)(億円)	目標			587	611	635	660	
	実績	548	R1.8月判明予定	R2.8月判明予定				H28実績値 573
	達成率			—				
出典:経済産業省「工業統計調査」	指標の判定			n				

総合評価	評価理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「輸送用機械器具製造業の製造品出荷額」、②「医療機器関連製造業の製造品出荷額」どちらも「n:未判明」であり、定量的評価は「N」。 ● 代表指標①に関しては、平成29年の実績値は新規調査対象企業3社を除いた実績値は1,258億円で、30年の目標値1,220億円と比較して103.1%の達成状況と「a」相当であり、マッチング支援などの取組が実績値の増加に寄与しているほか、既存取引先からの着実な受注により出荷額が増加している。 ● 代表指標②に関しては、平成28年の実績は573億円で、27年に比べて4.6%増加し、30年目標値の97.6%の水準に達していることから「b」相当である。医療現場ニーズ発表会による県内企業とのマッチングの結果、発表ニーズ20件のうち、4件が製品開発に向け交渉中となっている。また、新たな介護現場の課題解決に資する機器開発に取り組む県内企業3社を支援したほか、医療福祉関連産業への参入に必要な関係法令や医療機器の構造等を学ぶ講座を開催し、29年度を15名上回る延べ67名が受講するなど、関連企業の育成が順調に進んでいる。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

施策2-2 中小企業・小規模企業者の活性化と生産性向上

代表指標①	年度	現状値 (H27)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
製造品出荷額等(従業員4人以上の事業所)(億円)	目標			12,883	13,257	13,641	14,037	
	実績	12,153	13,733	R2.2月判明予定				H28実績値12,353 H29は速報値
	達成率			—				
出典:経済産業省「工業統計調査」	指標の判定			n				
代表指標②	年度	現状値 (H27)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
製造品付加価値額(従業員4人以上の事業所)(億円)	目標			5,024	5,169	5,319	5,474	
	実績	4,739	5,757	R2.2月判明予定				H28実績値 4,761 H29は速報値
	達成率			—				
出典:経済産業省「工業統計調査」	指標の判定			n				

総合評価	評価理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「製造品出荷額等」、②「製造品付加価値額」どちらも「n:未判明」であり、定量的評価は「N」。 ● 代表指標①に関しては、平成29年の速報値は13,733億円で、前年からの伸び率は全国平均の5.0%を大きく上回る全国2位であり、30年の目標値12,883億円と比較して106.6%の達成状況で「a」相当である。(公財)あきた企業活性化センターによる企業の各ステージに応じたきめ細かな支援に加え、IoT等先進技術の活用等による生産性向上と競争力強化への新たな支援など、企業の経営基盤の強化に向けた取組が進んでおり、30年も堅調に推移している。 ● 代表指標②に関しては、平成29年の速報値は5,757億円で、前年からの伸び率は全国平均の5.7%を大きく上回る全国1位であり、30年の目標値5,024億円と比較して114.6%の達成状況で「a」相当である。代表指標の①同様、企業の経営基盤の強化に向けた取組が進んでおり、30年も堅調に推移している。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。

施策2-3 国内外の成長市場の取り込みと投資の促進

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
秋田港国際コンテナ取扱量(実入り)(TEU)	目標			55,900	58,600	61,500	64,500	
	実績	50,776	50,678	50,271				
	達成率			89.9%				
出典: 県港湾空港課「県港湾統計年報」	指標の判定			e				

代表指標②	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
企業の誘致件数及び誘致済企業の施設・設備の拡充件数(件)	目標			24	24	26	26	
	実績	22	24	24				
	達成率			100.0%				
出典: 県産業集積課調べ	指標の判定			a				

総合評価

評価理由

- C**
- 代表指標の達成状況については、①「秋田港国際コンテナ取扱量(実入り)(TEU)」は「e」判定、②「企業の誘致件数及び誘致済企業の施設・整備の拡充件数(件)」は「a」判定であり、定量的評価は「D」。
 - 代表指標①に関しては、主要輸出品目である製材が、住宅着工等の需要動向に左右されコンテナ取扱量に影響を与えるものの、海外展開を考える企業への集中支援や積極的なポートセールスにより日本海側沿岸地方港では5万TEU(第3位)を維持しながら、輸出は過去最高を記録するなど堅調に推移している。
 - ターゲットをしぼった誘致活動や誘致後の細かいフォローアップにより、誘致件数は好調に推移している。また、リサイクル企業への設備投資支援や事業化に対する情報提供などにより、成果指標②「環境・リサイクル関連対象企業の製造品出荷額等(億円)」が平成29年実績比で2倍となったほか、石炭灰利用製品の開発促進が進んでいる。
 - 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。

施策2-4 産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
成長産業等における雇用創出数(人)	目標			1,575	1,670	1,820	2,010	
	実績	1,691	1,355	R1.9月判明予定				
	達成率			—				
出典: 県産業政策課調べ	指標の判定			n				

代表指標②	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
若者や女性等の働きやすい環境の整備に取り組む企業数(社)	目標			495	583	671	759	
	実績	330	434	575				
	達成率			116.2%				
出典: 県産業政策課調べ	指標の判定			a				

総合評価

評価理由

- C**
- 代表指標の達成状況については、①「成長産業等における雇用創出数」は「n:未判明」、②「若者や女性等の働きやすい環境の整備に取り組む企業数」は「a」判定であり、定量的評価は「N」。
 - 代表指標①に関しては、最新の数値である平成29年度の1,355人は現状値の1,691人を下回っており、30年度も目標達成は厳しいと見込まれる。平成28年度の大型雇用型の企業誘致による突出した雇用増の反動や、昨今の各業種における人手不足が更に深刻さを増したことで、企業において労働生産性の向上が重要視され始め、雇用の創出、拡大の動きに影響を及ぼしていることが一因として挙げられる。
 - 県内就職希望者への個別相談対応やAターンフェア開催等により、県内企業とのマッチング機会を拡充し、Aターン就職者数は目標を達成した。また県内大学生向けに県内企業面談会やインターンシップを行うなど、きめ細かなサポートを実施した結果、県内大学生等の県内就職率も前年を上回った。働き方改革推進員の県内企業訪問や建設業界での女性部会設立支援など、働きやすい職場づくりの取組が進んでいる。
 - 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。

戦略2の政策評価結果

総合評価	評価理由
C	<ul style="list-style-type: none">● 施策の評価結果は、「A」1施策、「B」1施策、「C」2施策（施策の評価結果の平均点は2.75）であり、政策の定量的評価は「C」。■ 施策の評価結果や推進状況などを総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。

■戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略

施策3-1 秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
農業法人数(認定農業者)(法人)	目標			670	730	790	850	
	実績	576	609	656				
	達成率			97.9%				
出典: 県農林政策課「担い手に関する定期報告」	指標の判定			b				
代表指標②	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
担い手への農地集積率(%)	目標			76.0	78.0	80.0	83.0	
	実績	73.2	74.1	R1.10月判明予定				
	達成率			-				
出典: 県農林政策課「担い手及びその農地利用の実態に関する調査」	指標の判定			n				

総合評価

評価理由

B

- 代表指標の達成状況については、①「農業法人数(認定農業者)」は「b」判定、②「担い手への農地集積率」は「n:未判明」であり、定量的評価は「N」。
- 代表指標②に関しては、平成29年度実績で30年度目標の97.5%を確保しており、増加傾向で推移している。また、農地中間管理事業を活用した農地集積面積は、29年度は2,168haで全国3位、30年度は3,019haで全国2位と、トップクラスの実績となっている。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

施策3-2 複合型生産構造への転換の加速化

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
主要園芸品目の系統販売額(億円)	目標			183	196	203	212	
	実績	160	145	156				
	達成率			85.2%				
出典: JAF秋田県青果物生産販売計画書	指標の判定			d				
代表指標②	年度	現状値 (H27)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
畜産産出額(億円)	目標			370	387	399	411	
	実績	352	366	R1.12月判明予定				H28実績値 364
	達成率			-				
出典: 農林水産省「生産農業所得統計」	指標の判定			n				

総合評価

評価理由

B

- 代表指標の達成状況については、①「主要園芸品目の系統販売額」は「d」判定、②「畜産産出額」は「n:未判明」であり、定量的評価は「N」。
- 代表指標①に関しては、春先の低温や7月の高温少雨、3度の台風接近といった気象の影響等外的要因により販売額の達成率は85.2%となったものの、園芸メガ団地の順調な整備、県オリジナル品種の生産面積の拡大、ダリアの他県と連携した周年出荷体制の構築などにより作付面積や生産規模が順調に伸びてきており、栽培規模は計画策定時に予定していた規模の9割以上に達している。なお、仮に気象の影響を除いた計画反収や単価で試算すると、170億円程度(達成率93%)で「b」相当であった。
- 代表指標②に関しては、平成29年度の実績は366億円で30年度目標の98%の水準に達し「b」相当であり、大規模畜産団地整備が38カ所で計画の95%であり、飼養頭羽数は堅調な伸びを示している。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

施策3-3 秋田米の戦略的な生産・販売と水田フル活用

代表指標①	年度	現状値 (H27)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
全国に占める秋田米のシェア (%)	目標			5.48	5.54	5.60	5.66	H27実績値は、H23～27 の最高値と最低値を除いた 3年平均 H28実績値 5.49
	実績	5.47	5.40	R1.12月判明予定				
	達成率			—				
出典：農林水産省「米穀の需給及び 価格安定に関する基本指針」	指標の判定			n				

代表指標②	年度	現状値 (H27)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
米の生産費(10ha以上の作付規 模の全算入生産費)(円/60kg)	目標			10,300	10,000	9,600	9,000	H28実績値 10,100
	実績	10,500	10,100	R2.2月判明予定				
	達成率			—				
出典：県水田総合利用課「生産費調査」	指標の判定			n				

総合評価

評価理由

- B**
- 代表指標の達成状況については、①「全国に占める秋田米のシェア (%)」及び②「米の生産費(10ha以上の作付規模の全算入生産費)円/60kg)」はどちらも「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。
 - 代表指標①に関しては、主食用米の国内消費量は減少傾向であるものの、事前契約の締結推進や、業務用米等を中心とした県産米への堅調な需要を背景に、県産米の生産量は平成29年から2万トン程度増えており、米産県として全国3位のシェアを維持している。また、新品種「秋系821」デビューに向けた各種対策のほか、増加する業務用米需要に対応するため、実需者との結びつき強化に対する支援などを実施しており、県産米シェアの拡大に向けた取組が着実に進んでいる。
 - 代表指標②に関しては、平成29年の実績値は10,100円/60kgで30年目標を達成しており、「a」相当である。農地集積等による経営規模の拡大、低コスト技術の普及推進が図られたことにより、生産コストの低減が順調に進んでいる。
 - 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

施策3-4 農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化

代表指標①	年度	現状値 (H27)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
6次産業化事業体販売額(億円)	目標			158	172	186	200	H28実績値 160 全国45位、東北6位
	実績	143	R1.8月判明予定	R2.8月判明予定				
	達成率			—				
出典：農林水産省「6次産業化総合調査」	指標の判定			n				

総合評価

評価理由

- B**
- 代表指標の達成状況については、①「6次産業化事業体販売額」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。
 - 代表指標①に関しては、直近の平成28年度実績は約160億円で、30年度の目標値158億円を達成しており、「a」相当である。6次産業化サポート体制の充実や異業種連携などが進んでいることから、順調な増加が見込まれる。しかしながら、1事業体当たりの事業規模は依然として小さく、特に、農産物加工については約9百万円と東北平均の6割にも満たず、農家所得の向上に十分寄与しているとは言えないことから、6次産業化への取組は未だ十分とは言えない。
 - 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

施策3-5 「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
素材生産量(燃料用含む)(千m ³)	目標			1,554	1,576	1,673	1,700	
	実績	1,470	1,484	R1.9月判明予定				
	達成率			—				
出典:農林水産省「木材統計」、林野庁「木質バイオマスエネルギー利用動向調査」	指標の判定			n				

代表指標②	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
スギ製品出荷量(千m ³)	目標			651	670	688	706	
	実績	591	634	R1.10月判明予定				
	達成率			—				
出典:県林業木材産業課「木材加工業実態調査」、「木材需給動向観測調査」	指標の判定			n				

総合評価

評価理由

B

- 代表指標の達成状況については、①「素材生産量(燃料用を含む)」及び②「スギ製材品出荷量」どちらも「n:未判明」であり、定量的評価は「N」。
- 代表指標①に関しては、最新数値の平成29年実績は1,484千m³で、30年の目標値の95.5%の水準で「b」相当。30年の燃料用を含まない「素材生産量」の国の速報値は、対前年比で1.0%増と増加傾向で推移しており、素材生産量は堅調に伸びている。
- 代表指標②に関しては、最新数値の平成29年実績は634千m³で、30年の目標値の97.4%の水準で「b」相当。木材加工流通企業が行う施設整備や国内外への販路拡大を目的としたプロモーション活動等の実施により、スギ製材品出荷量は今後も順調な増加が見込まれる。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

施策3-6 つくり育てる漁業と広域浜プランの推進による水産業の振興

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
海面漁業協同組合員1人当たりの漁業生産額(千円)	目標			3,000	3,050	3,110	3,170	
	実績	2,880	2,821	2,832				
	達成率			94.4%				
出典:県水産漁港課「漁業生産額調査、海面漁協台帳調査」	指標の判定			d				

代表指標②	年度	現状値 (H27)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
つくり育てる漁業の対象魚種の漁業生産額(億円)	目標			10.1	10.3	10.5	10.7	H28実績値 8.9 全国12(/39)位、東北4位
	実績	9.7	8.9	R2.5月判明予定				
	達成率			—				
出典:農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報」	指標の判定			n				

総合評価

評価理由

C

- 代表指標の達成状況については、①「海面漁業協同組合員1人当たりの漁業生産額」は「d」判定、②「つくり育てる漁業の対象魚種の漁業生産額」は「n:未判明」であり、定量的評価は「N」。
- 代表指標①に関しては、ハタハタの資源量の低下から漁獲量が低迷し、最新の数値である平成29年の値でも27年の現状値を下回る実績値となっており、「d」相当。30年においても、対象魚種の水揚げ量の推移から、横ばいの実績が予想される。
- ハタハタの不漁が続いているものの、平成30年度に整備が完了した水産振興センター栽培漁業施設において、新たにキジハタの種苗生産といった、富山県以北では例のない先進的技術を開発しており、つくり育てる漁業による資源の維持・増大に向けた取組が着実に進んでいる。
- 「全国豊かな海づくり大会」の1年前イベントとして「地魚フェスティバル」を開催したほか、新たに「秋田のさかなを食べようキャンペーン」を量販店72店舗で開催した。「地魚フェスティバル」の来場者からの聞き取りでは、「イベントをきっかけとして水産業への理解が深まった」との感想が聞かれるなど、「全国豊かな海づくり大会」を契機として本県の地魚や漁村文化への理解が進んでいる。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。

施策3-7 地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
中山間地域資源活用プラン策定地域数(累積)(地域)	目標			45	50	55	60	
	実績	37	45	49				
	達成率			108.9%				
出典: 県農山村振興課「元気な中山間農業応援事業実績」	指標の判定			a				
代表指標②	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
水と緑の森づくり推進事業参加者数(累積)(百人)	目標			211	423	635	847	H30年度から「水と緑の森づくり税事業第3期5箇年計画」に基づく取組を開始
	実績	—	—	223				
	達成率			105.7%				
出典: 県森林整備課「秋田県水と緑の森づくり推進事業実績」	指標の判定			a				
総合評価	評価理由							
A	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「中山間地域資源活用プラン策定地域数」及び②「水と緑の森づくり推進事業参加者数」どちらも「a」判定であり、定量的評価は「A」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。 							

戦略3の政策評価結果

総合評価	評価理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ● 施策の評価結果は、「A」1施策、「B」5施策、「C」1施策（施策の評価結果の平均点は3.00）であり、政策の定量的評価は「B」。 ■ 施策の評価結果や推進状況などを総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

■戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略

施策4-1 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
観光地点等入込客数(延べ人数)(千人)	目標			33,000	33,500	34,000	34,500	
	実績	31,596	33,282	R1.8月判明予定				
	達成率			—				
出典: 県観光戦略課「秋田県観光統計」	指標の判定			n				

総合評価

評価理由

- B**
- 代表指標の達成状況については、①「観光地点等入込客数(延べ人数)」は「n:未判明」であり、定量的評価は「N」。
 - 代表指標①に関しては、最新の統計である平成29年の実績値は、「春の大型観光キャンペーン」の実施などにより、30年の目標値を上回る水準となっている。30年は、「秋の大型観光キャンペーン」を実施しており、期間中の観光地点等入込客数(聞き取り調査)は、前年同時期に比べ13.6%上昇している。また、成果指標・業績指標①「延べ宿泊者数」は、3,505千人泊で目標を達成し、26年以降4年ぶりに増加した。
 - 海外の重点市場へのプロモーションを展開した結果、台湾からの定期チャーター便の就航が平成31年3月に決定した。30年度の海外からのチャーター便は、韓国の冬季チャーター便が前年度比で8便減少するなど、過去最多を記録した29年度の130便を下回る118便であった。また、成果指標・業績指標②「外国人延べ宿泊者数」の達成率は98.7%(123,430人泊)であったが、前年からの伸び率は17.9%であり、東北の38.3%や全国平均の18.3%と比較して低い伸び率にとどまっている。
 - 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

施策4-2 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進

代表指標①	年	現状値 (H27)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
食料品・飲料等製造品出荷額等(億円)	目標			1,260	1,280	1,290	1,300	
	実績	1,205	R1.8月判明予定	R2.8月判明予定				H28実績値 1,284 全国44位、東北6位
	達成率			—				
出典: 経済産業省「工業統計調査」	指標の判定			n				

総合評価

評価理由

- B**
- 代表指標の達成状況については、①「食料品・飲料等製造品出荷額等」は「n:未判明」であり、定量的評価は「N」。
 - 代表指標①に関しては、直近の平成28年実績は、30年目標値の101.9%の水準に達しており、県内蔵元への高品質な清酒づくりへの転換を図る設備導入への支援などにより、清酒課税移出数量に占める特定名称酒の比率は、対前年比3.2ポイント増の42.1%まで上昇していることや、輸出の増加などにより、30年の目標を達成する可能性は高いと思われる。
 - 秋田ならではの誘客ツールとして「発酵ツーリズム」を推進しているものの、インバウンドの拡大に必ずしも結びついていないとは言えないなど、本県独自の食文化の誘客コンテンツとしての活用は、まだ道半ばの状態にあると言える。
 - 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

施策4-3 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
文化事業への来場者数(人)	目標			455,000	460,000	465,000	470,000	
	実績	449,311	315,365	465,879				
	達成率			102.4%				
出典: 県文化振興課調べ	指標の判定			a				

総合評価

評価理由

- B**
- 代表指標の達成状況については、①「文化事業の来場者数」は「a」判定であり、定量的評価は「A」。
 - 「新・秋田の行事」等の開催や本県の文化の国内外へ発信など、地域文化の観光資源としての活用を進めているが、多彩な文化事業を通じた交流人口の拡大という、施策の目指す姿の実現は道半ばの状態にある。
 - 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

施策4-4 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
成人の週1回以上のスポーツ実施率(%)	目標			54.0	57.0	61.0	65.0	
	実績	49.5	46.9	48.0				
	達成率			88.9%				
出典:県スポーツ推進委員協議会「全県体カテスト・スポーツ実態調査」	指標の判定			d				

総合評価	評価理由
C	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「成人の週1回以上のスポーツ実施率」は「d」判定であり、定量的評価は「D」。 ● 各競技団体の選手強化対策を継続して支援してきたことで、成年及び少年ともに成果が現れ始めている。成年では第24回世界バドミントン選手権大会において、北都銀行の永原・松本ペアが日本勢として41年ぶりに優勝し、米元・田中ペアも第3位という成績を挙げ、世界ランク上位を維持している。ジュニア世代では、全国高等学校野球選手権大会において金足農業高校野球部が県勢として第1回大会以来103年ぶりの準優勝を果たしたほか、全国高等学校サッカー選手権大会では秋田商業高校が32年ぶり、全日本バレーボール高等学校選手権大会では雄物川高校が5年ぶりにそれぞれベスト8に進出するなど、好成績を残している。こうした県勢の活躍は、県民の一体感や郷土への愛着心向上のほか、交流人口の拡大などの地域活性化にもつながっている。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。

施策4-5 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
県内高速道路の供用率(%)	目標			90	90	92	92	
	実績	90	90	90				
	達成率			100.0%				
出典:県道路課調べ	指標の判定			a				

総合評価	評価理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「県内高速道路の供用率」は「a」判定であり、定量的評価は「A」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。

施策4-6 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築

代表指標①	年度	現状値 (H27)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
秋田県と県外間の旅客輸送人員数(千人)	目標			5,435	5,479	5,522	5,567	
	実績	5,392	6,015	R2.3月判明予定				H28実績値 4,940
	達成率			-				
出典:国土交通省「旅客地域流動調査」	指標の判定			n				

総合評価	評価理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「秋田県と県外間の旅客輸送人員数」は「n:未判明」であり、定量的評価は「N」。 ● 代表指標①に関しては、最新の統計である平成29年度の実績値は、前年度から大きく増加し30年度の目標値を上回る水準となっているが、これは、ねんりんピックあきた2017の開催や「春の大型観光キャンペーン」の実施などにより、県外からの入込客が増加したためと考えられる。30年度の実績は、前年度を下回ることも想定されるが、秋田・大館能代両空港においては、旅行会社への旅行商品造成の働きかけや乗継利用のPR活動の実施などにより、秋田空港の年間利用者数が、14年ぶりに130万人を上回り、大館能代空港の年間利用者数も初めて15万人を上回るなど、両空港の利用者数は順調に増加している。また、秋田内陸縦貫鉄道については、「秋田犬っこ列車」の運行や地域資源を生かした観光利用の促進等により、訪日外国人客の利用が増加している。以上の状況から、指標実績は未判明であるものの、現状値は下回らず、かつ「b」相当以上は達成するものと考えている。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

戦略4の政策評価結果

総合評価	評価理由
B	<ul style="list-style-type: none">● 施策の評価結果は、「A」1施策、「B」4施策、「C」1施策（施策の評価結果の平均点は3.00）であり、政策の定量的評価は「B」。■ 施策の評価結果や推進状況などを総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

■戦略5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略

施策5-1 健康寿命日本への挑戦

代表指標①-1	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
健康寿命 男性 (年)	目標			71.71	72.21	72.71	73.21	
	実績	71.21	—	—	R3.3月判明予定			
	達成率			—	—			
出典:厚生労働科学研究「厚生労働科学研究班資料」	指標の判定			n	—			
代表指標①-2	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
健康寿命 女性 (年)	目標			74.98	75.43	75.87	76.32	
	実績	74.53	—	—	R3.3月判明予定			
	達成率			—	—			
出典:厚生労働科学研究「厚生労働科学研究班資料」	指標の判定			n	—			

総合評価	評価理由
C	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①-1「健康寿命 男性」及び①-2「健康寿命 女性」どちらも「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。 ● 代表指標①に関しては、健康づくりは個人に留まらず社会的に取り組むべき課題と捉え、平成29年度から県、市町村、商工団体、保健医療団体等で構成する健康づくり県民運動推進協議会を中心として、「健康寿命日本一」に向けた県民総ぐるみの健康づくり県民運動を展開しており、2年目となる30年度は、協議会の会員数が増加するとともに、成果指標②「健康長寿推進員の育成数」が大幅に増加するなど、県民運動の推進体制が強化された。 ● 一方、成果指標①「要介護2以上の者（65歳以上75歳未満）が被保険者に占める割合」が改善し、全国平均値との乖離も縮小するとともに、成果指標③「チャレンジデー参加率」の達成率が107.9%（全国1位）となるなど、県民の健康意識を高めるための取組の成果が現れ始めているが、「平成30年人口動態統計月報年計（概数）」によると、がんや脳血管疾患の死亡率は改善してきているものの、未だ全国下位の状況が続いているなど、県民一人ひとりの意識改革と行動変容に向けた取組を継続していく必要がある。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。

施策5-2 心の健康づくりと自殺予防対策

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
自殺による人口10万人当たり死亡率(人口10万対)	目標			22.4	21.6	20.8	20.1	
	実績	23.8	24.4	R1.9月判明予定				
	達成率			—	—			
出典:厚生労働省「人口動態統計」	指標の判定			n				

総合評価	評価理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「自殺による人口10万人当たり死亡率」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。 ● 代表指標①に関しては、速報値は20.3、達成状況は110.3%で「a」相当であり、自殺死亡率、自殺者数ともに前年を大幅に下回る見込みであるなど、これまでの取組の成果が現れてきているものの、年代別に見れば80歳以上の高齢者の自殺者数は増加している。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

施策5-3 医療ニーズに対応した医療提供体制の整備

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
脳血管疾患による人口10万人当たり年齢調整死亡率(人口10万対)	目標			35.1	33.7	32.3	30.9	
	実績	37.9	37.7	R1.9月判明予定				
	達成率			-				
出典:厚生労働省「人口動態統計」	指標の判定			n				

代表指標②	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
がんによる人口10万人当たり75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対)	目標			85.5	83.6	81.7	79.8	
	実績	87.4	83.8	R1.12月判明予定				
	達成率			-				
出典:厚生労働省「人口動態統計」他	指標の判定			n				

総合評価

評価理由

B

- 代表指標の達成状況については、①「脳血管疾患による人口10万人当たり年齢調整死亡率」及び②「がんによる人口10万人当たり75歳未満年齢調整死亡率」どちらも「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。
- 代表指標①に関しては、速報値は35.5、達成状況は98.9%で「b」相当であり、高齢者医療先端研究センターや救命救急センター等への支援など脳血管疾患の年齢調整死亡率の低下に向けた取組を進めている。
- 代表指標②に関しては、平成29年実績値は83.8で30年目標を達成し、「a」相当となっており、地域がん診療連携拠点病院等への支援など75歳未満年齢調整死亡率の低下に向けた取組を進めている。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

施策5-4 高齢者や障害者等が安全・安心に暮らせる福祉の充実

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
介護施設等の介護職員数(人)	目標			22,750	23,300	23,850	24,400	
	実績	20,891	21,228	R2.1月判明予定				
	達成率			-				
出典:厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」	指標の判定			n				

総合評価

評価理由

B

- 代表指標の達成状況については、①「介護施設等の介護職員数」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。
- 代表指標①に関しては、平成29年度実績値は21,228人であり、30年度目標値と比較して93.3%の達成状況で「b」相当である。介護分野の求人・求職に係るマッチングの推進や中高生等を対象とした介護施設等での職場体験の機会の提供、介護職員の処遇改善加算の取得・活用の支援、介護サービス事業所認証評価制度の推進や事業所における介護ロボットの導入支援など、介護職への新規就労及び職場定着を支援する各種取組を進めた結果、実際に就業につながる等の効果が現れており、30年度も同様の実績が期待できる。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

施策5-5 次代を担う子どもの育成

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
里親委託児童数(人)	目標			22	25	28	31	ファミリーホームによる措置児童数を含む。
	実績	16	19	25				
	達成率			113.6%				
出典:県地域・家庭福祉課調べ	指標の判定			a				

総合評価

評価理由

B

- 代表指標の達成状況については、①「里親委託児童数」は「a」判定であり、定量的評価は「A」。
- 代表指標①に関しては、目標は達成したものの、平成30年度の里親委託率(乳幼児：20.8%、学童期以降：9.6%、全体：12.2%)は、29年度の全国平均(全体：19.7%)を下回っており、30年度も引き続き全国下位の水準となることが見込まれるとともに、国の社会的養育ビジョンで示されている目標値(乳幼児：75%以上、学童期以降：50%以上)を大きく下回っている。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

戦略5の政策評価結果

総合評価	評価理由
C	<ul style="list-style-type: none">● 施策の評価結果は、「B」4施策、「C」1施策（施策の評価結果の平均点は2.80）であり、政策の定量的評価は「C」。■ 施策の評価結果や推進状況などを総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。

■戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略

施策6-1 自らの未来を主体的に切り拓き、秋田を支える気概に満ちた人材の育成

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
高校生の県内就職率(公立、 全日制・定時制)(%)	目標			68.0	70.0	72.0	74.0	
	実績	65.0	66.9	R1.12月判明予定				
	達成率							
出典:文部科学省「学校基本調査」	指標の判定			n				

総合評価

評価理由

B

- 代表指標の達成状況については、①「高校生の県内就職率(公立、全日制・定時制)」は「n」判定であり、定量的評価は「N」。
- 代表指標①に関しては、「秋田県高等学校卒業者の進路状況調査(平成31年3月)」における県内就職率は65.0%で達成状況は95.6%で「b」相当となっている。高校新卒者の求人倍率が全国的に高い状況下において、就職支援員等によるインターンシップ等の体験活動支援や、地域で活躍する企業の紹介、求人開拓等のきめ細かな取組が進んでいる。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその結果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

施策6-2 子ども一人一人に応じた教育の充実と確かな学力の定着

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
授業で自分の考えを発表する機会がよくあると思う児童生徒の割合(小4~中2)(%)	目標			91.4	91.6	91.8	92.0	
	実績	91.0	91.4	91.1				
	達成率			99.7%				
出典:県義務教育課「秋田県学習状況調査」	指標の判定			b				

総合評価

評価理由

B

- 代表指標の達成状況については、①「授業で自分の考えを発表する機会がよくあると思う児童生徒の割合」は「b」判定であり、定量的評価は「B」。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

施策6-3 世界で活躍できるグローバル人材の育成

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
英検3級以上相当の英語力を有する中学3年生の割合(%)	目標			47.0	52.0	57.0	62.0	
	実績	37.1	49.1	48.3				
	達成率			102.8%				
出典:文部科学省「英語教育実施状況調査」	指標の判定			a				

総合評価

評価理由

A

- 代表指標の達成状況については、①「英検3級以上相当の英語力を有する中学3年生の割合」は「a」判定であり、定量的評価は「A」。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。

施策6-4 豊かな人間性と健やかな体の育成

代表指標①	年度	現状値 (H29)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合(小6、中3)(%)	目標			83.6	84.2	84.8	85.4	
	実績	83.0	83.0	89.1				
	達成率			106.6%				
出典:文部科学省「全国学力・学習状況調査」	指標の判定			a				

代表指標②	年度	現状値 (H29)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
運動やスポーツをすることが「好き」な児童生徒の割合(小5、中2)(%)	目標			67.0	68.0	69.0	70.0	
	実績	65.6	65.6	66.0				
	達成率			98.5%				
出典:スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」	指標の判定			b				

総合評価	評価理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合」は「a」判定、②「運動やスポーツをすることが「好き」な児童生徒の割合」は「b」判定であり、定量的評価は「B」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

施策6-5 子どもの成長を支える魅力的で良質な学びの場づくり

代表指標①	年度	現状値 (H29)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
授業の内容がよく分かると思う児童生徒の割合(小6、中3)(%)	目標			84.0	84.0	84.0	84.0	
	実績	83.8	83.8	85.8				
	達成率			102.1%				
出典:文部科学省「全国学力・学習状況調査」	指標の判定			a				

総合評価	評価理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「授業の内容がよく分かると思う児童生徒の割合」は「a」判定であり、定量的評価は「A」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。

施策6-6 地域社会と産業の活性化に資する高等教育機関の振興

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
県内高等教育機関による県内企業等との共同研究・受託研究数(件)	目標			94	96	98	100	
	実績	89	86	105				
	達成率			111.7%				
出典:県高等教育支援室調べ	指標の判定			a				

代表指標②	年度	現状値 (H29)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
県内高卒者の県内大学・短大への進学率(%)	目標			28.8	29.2	29.6	30.0	
	実績	28.4	28.4	27.9				
	達成率			96.9%				
出典:文部科学省「学校基本調査」	指標の判定			e				

総合評価	評価理由
D	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「県内高等教育機関による県内企業等との共同研究・受託研究数」は「a」判定、②「県内高卒者の県内大学・短大への進学率」は「e」判定であり、定量的評価は「D」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその結果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。

施策6-7 地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
芸術・文化施設をセカンドスクール的に利用した小・中学生の割合(%)	目標			28.0	29.0	30.0	31.0	
	実績	26.6	23.7	24.3				
	達成率			86.8%				
出典: 県生涯学習課調べ	指標の判定			d				
総合評価	評価理由							
C	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「芸術・文化施設をセカンドスクール的に利用した小・中学生の割合」は「d」判定であり、定量的評価は「D」。 ● 生涯学習支援システムへの登録件数が前年度に比べて49.7%伸びたことに加え、あきたスマートカレッジや県庁出前講座等のより多様な学びの場を提供することにより、地域で活躍できる人材を育成することにつながっている。 ● 「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産推薦候補に選出されたほか、「男鹿のナマハゲ」を含む「来訪神：仮面・仮装の神々」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことから、観光振興への波及効果が期待されるとともに、文化遺産等の価値の再認識や保存・活用への機運が高まってきている。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。 							

戦略6の政策評価結果

総合評価	評価理由
C	<ul style="list-style-type: none"> ● 施策の評価結果は、「A」2施策、「B」3施策、「C」1施策、「D」1施策（施策の評価結果の平均点は2.86）であり、政策の定量的評価は「C」。 ■ 施策の評価結果や推進状況などを総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。

4 基本政策を構成する施策の評価結果の状況

基本政策名	施策名	総合評価
基本政策 1 県土の保全と防災力強化	(1) 災害に備えた強靱な県土づくり	A
	(2) 地域防災力の強化	C
基本政策 2 環境保全対策の推進	(1) 地球温暖化防止と循環型社会の形成	B
	(2) 良好な環境と豊かな自然の保全	B
基本政策 3 安全・安心な生活環境の確保	(1) 犯罪や事故のない地域づくり	E
	(2) 暮らしやすい生活環境の確保	C
	(3) 安らげる生活基盤の整備	C
基本政策 4 ICTによる便利な暮らしの実現と地域の活性化	(1) ICT利活用による県民生活の利便性向上	A
	(2) ICT利活用による地域の活性化	A

5 基本政策の施策評価の結果

■基本政策 1 県土の保全と防災力強化

(1) 災害に備えた強靱な県土づくり								
代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
県管理河川の整備率(%)	目標			46.1	46.3	46.5	46.7	
	実績	45.9	46.0	46.1				
	達成率			100.0%				
出典: 県河川砂防課調べ		指標の判定		a				
総合評価	評価理由							
A	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「県管理河川の整備率(%)」は「a」判定であり、定量的評価は「A」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。 							
(2) 地域防災力の強化								
代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
自主防災組織の組織率(%)	目標			79.3	81.6	83.9	86.2	
	実績	68.7	69.6	70.5				
	達成率			88.9%				
出典: 県総合防災課調べ		指標の判定		c				
総合評価	評価理由							
C	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「自主防災組織の組織率(%)」は「c」判定であり、定量的評価は「C」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。 							

■基本政策 2 環境保全対策の推進

(1) 地球温暖化防止と循環型社会の形成								
代表指標①	年度	現状値 (H25)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
県内の温室効果ガス排出量(千トン-CO2)	目標			10,444	10,359	10,274	10,190	H27実績値 10,268
	実績	10,869	R3.1月判明予定	R4.1月判明予定				
	達成率			—				
出典: 県温暖化対策課「秋田県における温室効果ガスの排出状況について」	指標の判定			n				
代表指標②	年度	現状値 (H27)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
廃棄物の最終処分量(千トン)	目標			331	330	328	327	H28実績値 371
	実績	279	313	R2.3月判明予定				
	達成率			—				
出典: 県環境整備課「秋田県産業廃棄物処理実態調査」、環境省「一般廃棄物処理事業実態調査」	指標の判定			n				
総合評価	評価理由							
B	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「県内の温室効果ガス排出量」及び②「廃棄物の最終処分量」どちらも「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。 ● 代表指標①に関しては、最新の統計である平成27年度実績において、30年度目標値を下回る水準まで温室効果ガス排出量が抑制されている。また、30年度は、県民を対象とした「あきたエコ&リサイクルフェスティバル」の開催や企業向けの「事業者応援!あきた省エネセミナー」の実施など普及啓発に取り組み、県民や企業の環境保全意識を高め、地球温暖化防止のための積極的な行動を促すことができた。 ● 代表指標②に関しては、公表されている最新の統計である29年度実績が30年度目標値の94.6%に達しているほか、認定リサイクル製品の認定数や県の公共工事での調達額が29年度よりも増加するとともに、企業向けに「事業系廃棄物減量化推進セミナー」を開催するなど、廃棄物の有効利用や発生抑制に向けた取組が着実に進んだ。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。 							
(2) 良好な環境と豊かな自然の保全								
代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
水環境(公共用水域)に係る環境基準達成率(%)	目標			91.9	93.5	95	95	
	実績	88.8	91.5	90.7				
	達成率			98.7%				
出典: 県環境管理課「公共用水域水質調査結果」	指標の判定			b				
総合評価	評価理由							
B	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「水環境(公共用水域)に係る環境基準達成率」は「b」判定であり、定量的評価は「B」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。 							

■基本政策 3 安全・安心な生活環境の確保

(1) 犯罪や事故のない地域づくり								
代表指標①	年度	現状値 (H29)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
交通事故死者数(人)	目標			30人以下	30人以下	30人以下	30人以下	
	実績	30	30	42				
	達成率			71.4%				
出典: 県警察本部交通部「交通統計」	指標の判定			e				
総合評価	評価理由							
E	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、「e」判定であり、定量的評価は「E」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「E」とする。 							
(2) 暮らしやすい生活環境の確保								
代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
犬猫の年間殺処分数(頭)	目標			179	0	0	0	
	実績	578	343	373				
	達成率			48.0%				
出典: 県生活衛生課調べ	指標の判定			d				
代表指標②	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
秋田県HACCP認証延べ件数(件)	目標			140	160	180	200	
	実績	108	119	134				
	達成率			95.7%				
出典: 県生活衛生課調べ	指標の判定			b				
総合評価	評価理由							
C	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「犬猫の年間殺処分数」は「d」判定、②「秋田県HACCP認証延べ件数」は「b」判定であり、定量的評価は「D」。 ● 代表指標①に関しては、収容頭数に占める「譲渡適性のない犬猫」の割合の増加等に伴い目標を達成できなかったものの、平成30年度の殺処分数のうち、現在、環境省が全国的な統一に向けて検討している殺処分の定義である「譲渡適性はあるがやむを得ず処分したもの」に該当するのは、全体の約3分の1である125頭にとどまり、目標値である179頭を下回っている。 ● また、平成27年度に着手した「秋田県動物愛護センター」の整備が完了し、収容犬猫の適正譲渡の推進等に向けた機能強化が図られた。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。 							

(3) 安らげる生活基盤の整備

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
下水道等の汚水処理人口普及率(%)	目標			87.1	87.8	88.4	88.9	
	実績	86.1	86.7	R1.8月判明予定				
	達成率			—				
出典:県下水道課「秋田の下水道(資料編)」	指標の判定			n				
代表指標②	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
県立都市公園の平均満足度(%)	目標			87.5	87.5	88.0	88.0	
	実績	87.1	84.0	86.1				
	達成率			98.4%				
出典:県都市計画課調べ	指標の判定			d				
総合評価	評価理由							
C	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「下水道等の汚水処理人口普及率(%)」は「n:未判明」、②「県立都市公園の平均満足度(%)」は「d」判定であり、定量的評価は「N」。 ● 代表指標①に関しては、平成30年度の実績値は未判明だが、29年度の実績値は30年度目標値の99.5%の水準に達しており、事業の実施状況を踏まえると、30年度の実績値はさらに上昇していると考えられる。 ● 人口減少下においても持続的かつ効率的な生活排水処理を実現するため、市町村等との協働により、県北地区における生活排水処理から発生する汚泥の広域共同処理事業のほか、「県流域下水道」と「秋田市単独公共下水道」の統合事業などを進めており、成果・業績指標③「生活排水処理場数」は目標を達成している。本県の持続可能な下水道事業を目指す取組は、「秋田モデル」として全国的にも評価されている。 ● 子育て世帯の住宅リフォーム支援について、子育て世帯(持ち家型)の補助対象を子供3人以上から2人以上の世帯に拡充した結果、支援実績が前年度から340件増の496件となり、子どもと暮らしやすい居住環境づくりに大きく寄与している。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。 							

■基本政策4 ICTによる便利な暮らしの実現と地域の活性化

(1) ICT利活用による県民生活の利便性向上								
代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
電子申請サービスの申請件数 (件)	目標			5,000	6,000	7,000	8,000	
	実績	4,030	3,739	5,224				
	達成率			104.5%				
出典: 県情報企画課調べ	指標の判定			a				
総合評価	評価理由							
A	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「電子申請サービスの申請件数」は「a」判定であり、定量的評価は「A」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。 							
(2) ICT利活用による地域の活性化								
代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
実施されたICTを用いた地域活性化事業数(累積)(件)	目標			1	2	2	3	
	実績	—	2	3				
	達成率			300.0%				
出典: 県情報企画課調べ	指標の判定			a				
総合評価	評価理由							
A	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「実施されたICTを用いた地域活性化事業数」は「a」判定であり、定量的評価は「A」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。 							

6 事業評価

(1) **中間評価** (対象：継続事業)

評価結果 (事業の妥当性)	件数	
	知事	教育委員会
継続	224	20
改善して継続	48	12
見直し	0	0
休廃止	0	0
終了	26	7
計	298	39

(2) **事後評価** (対象：終了事業)

評価結果 (事業の妥当性)	件数	
	知事	教育委員会
妥当性が高い	5	2
概ね妥当である	19	1
妥当性が低い	0	0
計	24	3

7 公共事業箇所評価 (平成30年度に行った評価)

(1) **中間評価** (対象：継続事業) (2) **事後評価** (対象：終了事業)

評価結果 (今後の継続・中止)	件数
継続	31
改善して継続	0
見直し	0
中止	0
計	31

評価結果 (事業の妥当性)	件数
妥当性が高い	2
概ね妥当である	3
妥当性が低い	0
計	5

8 研究課題評価

(1) **中間評価** (対象：継続課題) (2) **事後評価** (対象：終了課題)

評価結果 (進捗状況)	件数
計画より大きな成果	1
計画より成果	6
計画どおり	16
努力が必要	0
継続意義は低い	0
計	23

評価結果 (研究成果)	件数
見込みを上回る	2
見込みをやや上回る	2
見込みどおり	9
見込みをやや下回る	0
見込みを下回る	0
計	13

Ⅲ 公安委員会及び警察本部長が行った政策等の評価の実施状況 (概要)

1 政策評価

(対象：「平成30年秋田県警察運営の基本方針と重点目標」における重点目標のうちの4項目)

(1) 評価結果別一覧

評価結果	件数	政 策
A	3	○犯罪の起きにくい社会づくりの推進 ○少年非行防止・保護総合対策の推進 ○被害者支援の推進
B	1	○交通死亡事故の抑止
C	0	
D	0	
計	4	

評価結果区分

A：目標達成

B：目標達成が8割以上

C：目標達成が6割以上8割未満

D：目標達成が6割未満

(2) 評価の概要（主な評価結果）

評価結果	評価の概要
A	○「少年非行防止・保護総合対策の推進」については、児童・生徒に直接的な指導を行う非行・犯罪被害防止教室、大学生少年サポーターによる少年の立ち直り支援活動、スクールサポーターによる学校や地域と連携した活動等の各事業を積極的に実施した結果、非行少年の数が8年連続、少年人口比も6年連続で減少したことなどから、「A」と評価。
B	○「交通死亡事故の抑止」については、高齢者安全・安心アドバイザー、警察官及び関係機関等の職員が高齢者宅を戸別訪問しての交通安全指導や、きめ細かな高齢者向け交通安全教育活動を実施した。また、交通指導取締りでは、悪質性、危険性及び迷惑性の高い違反に重点を置いて実施した。結果として、交通事故発生件数及び負傷者数は、現行の統計方式を採用した昭和41年以降最小値となるなどの成果が見られた一方で、「交通事故高齢死傷者数の減少」（目標445人以下に対して実績454人）や「交通事故死傷者数の減少」（目標30人以下に対して実績42人）については、引き続き低水準を維持しているものの目標値に届かなかったことなどから、総合的に「B」と評価。

2 施策評価

(1) 評価結果別一覧

評価結果	件数	施策
着実に推進	7	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の犯罪情勢に即した犯罪抑止対策の推進 ○「秋田県地域安全ネットワーク」の活性化及びこれを基盤とした社会の規範意識の向上と絆づくりの推進 ○高齢者対策を最重点とする総合的な交通事故防止対策の推進 ○交通事故抑止に資する交通指導取締りの推進 ○安全で快適な交通環境の整備 ○非行少年を生まない社会づくりの推進 ○被害者の視点に立った警察活動の推進
改善を図りながら推進	0	
見直しが必要	0	
計	7	

(2) 評価の概要（主な評価結果）

評価結果	評価の概要
着実に推進	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域の犯罪情勢に即した犯罪抑止対策の推進」については、地域の犯罪情勢を分析し、犯罪多発地域に街頭防犯カメラを設置するなどの抑止対策を推進した結果、刑法犯認知件数は全国で2番目に少なく、刑法犯検挙率も全国1位になるなど一定の成果が見られた。

3 事業評価

(1) **中間評価** (対象：継続事業)

(2) **事後評価** (対象：終了事業)

評価結果 (対応方針)	件数
現状維持で継続	10
見直して継続	0
休廃止	0
計	10

※今年度は対象事業なし